

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 2 部門第 6 区分
 【発行日】平成 18 年 8 月 24 日 (2006.8.24)

【公開番号】特開 2005-200034 (P2005-200034A)
 【公開日】平成 17 年 7 月 28 日 (2005.7.28)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-029
 【出願番号】特願 2004-6241 (P2004-6241)
 【国際特許分類】

B 6 5 D 47/06 (2006.01)

A 4 7 G 19/12 (2006.01)

【F I】

B 6 5 D 47/06 J

B 6 5 D 47/06 K

A 4 7 G 19/12 G

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 7 月 6 日 (2006.7.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

螺子山を開口部外周に設けた容器本体と、この容器本体の開口端を覆うように載置され根元にストッパが形成された管状の注ぎ口とこの注ぎ口の近傍に形成された管状の空気抜き孔とを備えた弾性力のある樹脂からなる注ぎ口部材と、前記容器本体の螺子山に螺合する螺子溝を内周側面に形成し、前記注ぎ口部材の上面に載置され前記ストッパを含む前記注ぎ口および前記空気抜き孔が突出するように開口孔が形成されている押さえ部材と、この押さえ部材から突出した前記注ぎ口の開口および前記空気抜き孔の開口を押さえる内底面を形成し前記押さえ部材の外周側面と嵌合する内周側面を備えた蓋部材を具備することを特徴とする液体調味料容器。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

実開昭 62 - 27547 号公報には、ドレッシング等のように使用前に容器内の液体を攪拌する容器を液密とした蓋材が開示されている。この蓋材は第 3 図に示すように、容器本体 201 側に周設した蓋受け部 202 と、該蓋受け部 202 に取外し可能に嵌着係止される蓋本体 203 からなり、蓋受け部 202 の上面開口周囲に、先端部が略 R 状に拡径された筒状ガイド部 222 を管状に形成し、一方蓋本体 203 下面側の筒状ガイド部 222 に対応する位置に、該ガイド部内周面に嵌合可能に筒状封止部 231 を形成し、前記筒状ガイド部 222 と筒状封止部 231 間の面接触により容器本体内に封入した調味液の液封止を図った調味液封入容器の蓋構造において、蓋本体下面側に、筒状封止部と同心状に環状突起 232 を突設し、該突起 232 が蓋受け部 202 側に形成した筒状ガイド部 222 の先端拡径部 223 上面を圧接し、線接触にてシールを行う第 2 の液封止部を形成したものである。そして、前記筒状ガイド部 222 と筒状封止部 231 との間の毛細管現象による液漏れも防ぐようにしたものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

上記課題を解決するために、本発明の請求項1に対応する発明は、液体調味料容器において、螺子山を開口部外周に設けた容器本体と、この容器本体の開口端を覆うように載置され根元にストッパが形成された管状の注ぎ口とこの注ぎ口の近傍に形成された管状の空気抜き孔とを備えた弾性力のある樹脂からなる注ぎ口部材と、前記容器本体の螺子山に螺合する螺子溝を内周側面に形成し、前記注ぎ口部材の上面に載置され前記ストッパを含む前記注ぎ口および前記空気抜き孔が突出するように開口孔が形成されている押さえ部材と、この押さえ部材から突出した前記注ぎ口の開口および前記空気抜き孔の開口を押さえる内底面を形成し前記押さえ部材の外周側面と嵌合する内周側面を備えた蓋部材を具備するものとした。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

このように、弾性力のある樹脂からなる注ぎ口部材を介して容器本体と押さえ部材とを螺合することによって、押さえ部材の押圧力が注ぎ口部材に伝わり、容器本体の開口端と注ぎ口部材とを密着させることができる。注ぎ口部材に形成した管状の注ぎ口と管状の空気抜き孔とを押さえ部材から突出させるようにし、かつこれら注ぎ口と空気抜き孔との開口端を蓋部材で塞ぐようにしたので、両開口端を密着させることができる。また、注ぎ口の根元にストッパを形成したので、蓋部材を閉めたときに注ぎ口が容器本体側に落ち込まないので、注ぎ口部材の変形による空気抜き孔と蓋部材との隙間の形成を防ぐことができる。さらに、蓋部材の内周側面と押さえ部材の外周側面とを嵌合させているので、本発明の液体調味料容器を誤って横倒ししても蓋部材が外れることなく、密閉構造を維持することができる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

前記空気抜き孔7の開口端は、押さえ部材4を容器本体2に螺合させたとき押さえ部材4の上面から突出するような長さであり、蓋部材5の内底面により前記開口端は塞がれ密着状態となる。空気抜き孔7には注ぎ口6に形成したような環状ストッパ8を形成しなくても、注ぎ口6の環状ストッパ8により落ち込み量が低減されているので、満足できる密着状態を得ることができる。しかし、空気抜き孔7にも同様な環状ストッパ8を形成すれば、好ましいことはなおさらである。